

## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14058

建築物名称	Brillia鷺沼
建築主	東京建物株式会社 執行役員住宅事業部長 菊池 隆
建築物の所在地	川崎市宮前区有馬1丁目2-1他
設計者氏名、建築士事務所名	野生司 義光 株式会社野生司環境設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,727.95m <sup>2</sup>
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上6階、地下1階
工事完了年月	平成28年5月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	Brillia鷺沼	階数	地下1階地上6階
建設地	川崎市宮前区有馬1丁目2-1他	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	120 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2016年5月 竣工	評価の実施日	2012年11月28日
敷地面積	975 m <sup>2</sup>	作成者	関口 卓
建築面積	507 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,691 m <sup>2</sup>	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★☆☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
①参照値 100%  
②建築物の取組み 94%  
③上記+②以外のオンサイト手法 94%  
④上記+オフサイト手法 94%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 1  
LR2 資源・マテリアル: 2  
LR3 敷地外環境: 2

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

CASBEE-川崎2011 (v.1.2)

Brillia 藍河

14058

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.7</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針に適合させている。	2.0/4.3	2.3
2 まちなみ・景観への配慮	川崎市景観計画に従い、計画を反映させた。		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率40%以上60%未満、舗装面積10%以上20%未満		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	一部屋上緑化を実施した。	0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>3.1</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.3 外皮性能	庇とカーテンで昼光を制御している	4.3/6.6	3.3
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.2 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針に適合させている。	0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率40%以上60%未満、舗装面積10%以上20%未満		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	住宅性能表示性能の省エネルギー対策等級4を設定した。 住戸のすべてが外皮に2方向面するよう配置した。 潜熱回収式給湯器を採用した。	4.6/5.0	4.6
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.6/4.6	2.8
2 非再生性資源の使用量削減			
3 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	一部屋上緑化を実施した。	0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>2.9</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	2.9
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.2/3.9	2.8
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.3
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>3.1</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針に適合させている。	0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率40%以上60%未満、舗装面積10%以上20%未満		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	住宅性能表示性能の省エネルギー対策等級4を設定した。 住戸のすべてが外皮に2方向面するよう配置した。 潜熱回収式給湯器を採用した。	4.6/5.0	4.6
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	一部屋上緑化を実施した。	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の再利用		0.8/1.4	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	住宅性能表示性能の省エネルギー対策等級4を設定した。 住戸のすべてが外皮に2方向面するよう配置した。 潜熱回収式給湯器を採用した。	4.6/5.0	4.6
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEF-川崎2011年版						欄に数値またはコメントを記入				14058
スコアシート		基本設計段階								
配慮項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
						評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境							0.40			3.1
1 音環境						3.0	0.15	3.3	1.00	3.2
1.1 騒音						3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室内騒音レベル						3.0	1.00	3.0	0.50	
2 設備騒音対策								3.0	0.50	
1.2 遮音					T2仕様を採用している。	3.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能						3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境						1.0	0.35	3.0	1.00	2.6
2.1 室温制御						1.0	0.50	3.0	1.00	
1 室温						1.0	0.63	-	-	
2 負荷変動・追従制御性						-	-	-	-	
3 外皮性能		W				1.0	0.38	3.0	1.00	
4 ゾーン別制御性						1.0	-	-	-	
5 温度・湿度制御						-	-	-	-	
6 個別制御						-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-	-	
8 監視システム						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.4	0.25	3.5	1.00	3.2
3.1 昼光利用						3.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光率						3.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		W				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						1.0	0.30	4.0	0.50	
1 照明器具のグレア						-	-	-	-	
2 昼光制御		W			カーテン・庇により昼光を制御している。	1.0	1.00	4.0	1.00	
3 映り込み対策						-	-	-	-	
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					シックハウス対策等級F☆☆☆☆の材料をほぼ使用している。	4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策						-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等						-	-	-	-	
4 レジオネラ対策						-	-	-	-	
4.2 換気						3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画						-	-	-	-	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						1.0	-	-	-	
2 喫煙の制御						1.0	-	-	-	

Q2 サービス性能										
<b>1 機能性</b>										2.9
1.1 機能性・使いやすさ										2.7
1 広さ・収納性										0.60
2 高度情報通信設備対応										1.00
3 バリアフリー計画										-
1.2 心理性・快適性										0.40
1 広さ感・景観										0.50
2 リフレッシュスペース										-
3 内装計画										0.50
1.3 維持管理										-
1 維持管理に配慮した設計										-
2 維持管理用機能の確保										-
3 衛生管理業務										-
2 耐用性・信頼性										2.8
2.1 耐震・免震										-
1 耐震性										0.80
2 免震・制振性能										0.20
2.2 部品・部材の耐用年数										0.33
1 躯体材料の耐用年数					R					0.23
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					R					0.23
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					R					0.09
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					R					0.08
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					R					0.15
6 主要設備機器の更新必要間隔					R					0.23
2.4 信頼性										0.19
1 空調・換気設備										0.20
2 給排水・衛生設備										0.20
3 電気設備										0.20
4 機械・配管支持方法										0.20
5 通信・情報設備										0.20
3 対応性・更新性										3.2
3.1 空間のゆとり										0.50
1 階高のゆとり										0.60
2 空間の形状・自由さ										0.40
3.2 荷重のゆとり										0.50
3.3 設備の更新性										-
1 空調配管の更新性										0.17
2 給排水管の更新性										0.17
3 電気配線の更新性										0.11
4 通信配線の更新性										0.11
5 設備機器の更新性										0.22
6 バックアップスペース										0.22
Q3 室外環境(敷地内)										2.4
1 生物環境の保全と創出				G	W					1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G						3.0
3 地域性・アメニティへの配慮										3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										0.50
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H			0.50

LR 建築物の環境負荷低減性									3.5
LR1 エネルギー									4.5
1 建物の熱負荷抑制				W	H			日本住宅性能表示基準における等級4に相当。	5.0
2 自然エネルギー利用									3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				W	H				3.0
2.2 自然エネルギーの変換利用				W	H				3.0
3 設備システムの高効率化				W	H			潜熱回収型給湯器を採用した。	4.9
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)									5.0
集合住宅の評価									4.9
4 効率的運用									-
4.1 モニタリング				W	H				3.0
4.2 運用管理体制				W	H				3.0
LR2 資源・マテリアル									2.8
1 水資源保護				W	R				3.0
1.1 節水									3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									3.0
1 雨水利用システム導入の有無									3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無									3.0
2 非再生性資源の使用量削減									2.7
2.1 材料使用量の削減				W	R				2.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W	R				3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W	R				3.0
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				W	R				1.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W	R				2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W	R			LGS下地を使用している。	4.0
3 汚染物質含有材料の使用回避									3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用									3.0
3.2 フロン・ハロンの回避									3.0
1 消火剤				W					-
2 発泡剤(断熱材等)				W					3.0
3 冷媒				W					3.0
LR3 敷地外環境									3.0
1 地球温暖化への配慮				W				潜熱回収型給湯器を採用した。	3.2
2 地域環境への配慮									3.0
2.1 大気汚染防止									3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H			3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制									3.0
1 雨水排水負荷低減					R				-
2 汚水処理負荷抑制					R				3.0
3 交通負荷抑制					R				3.0
4 廃棄物処理負荷抑制					R				3.0
3 周辺環境への配慮									3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									3.0
1 騒音									3.0
2 振動									-
3 悪臭									-
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制									3.0
1 風害の抑制									3.0
2 砂塵の抑制									1.0
3 日照阻害の抑制									3.0
3.3 光害の抑制									3.0
1 屋外照明及び屋内照明のつらみに漏れる光への対策									3.0
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策									3.0

14058

Brillia鷺沼

このマンションは分譲住宅環境性能表示の届出を行っています。

建築主は分譲共同住宅環境性能表示を販売広告に掲載した日から15日以内に届け出る  
ことになっており、これにより公表しています。



この表示は川崎市の定めた基準に従って、建築主が自らの計画を評価した内容に  
基づいています。